

温室のある暮らし ~ハウス果物を農家の人と共に作る~



数年前、私はここ山梨県山梨市を旅行で訪れたことがあった。そのときはこの広い土地に大きなビニールハウスの温室がいくつも立ち並んでおり、そのハウスの中で様子をみて楽しんだ。今でもその美味しい味の味が忘れられずにいた。

そしてあの記録的な大雪が降った。2014年2月に降った大雪は過去最高だった積雪量49cmを3倍近く上回る114cmを記録した。その大雪で多くのビニールハウスが倒壊してしまい、主に高射者がハウス果樹の栽培をしていたため、ビニールハウスを再建しての経行がほとんど不可能になってしまった。補助金制度もあって再建を目指す農家もあるようだが、心配でならなかった。

あれから数年が経ち、偶然インターネットで調べ物をしていたら、「住宅とガラスハウスの温室が一体化した家」が十数軒、山梨市で分譲されていることを知り、大変興味をもった。その家は、木造2階建ての南側が吹き抜けになって、南側の外壁とガラスハウスが一体化している。ガラスハウスの温室はビニールハウスより丈夫だし、雪にも強い。ガラスハウスには「桃の木」や「サクランボの木」等の果樹が植栽されていて、その木を農家の人たちの指導を受けながら一緒に栽培できるというものだった。また、収穫された果物は自分たちで食べるだけでなく、出荷してその売上金を農家の人たちと分け合うことができるというシステムになっている。まったくの素人が自分たちだけで果樹栽培をするのは不可能に近いが、これなら大丈夫と直感し、妻や子供たちとも相談し、引越しを決意した。

引越し当初から私たちの家のガラスハウスの果樹栽培の面倒を見てくれるおじいさんとはすっかり仲良くなり、今では家族ぐるみのお付き合いをしている。おじいさんの家でも、今までは若い世代とコミュニケーションが取りにくかったけど、我々のような小さなガラスハウスの果樹栽培の手伝いをするにこころい世界とのふれあいが増えて嬉し。これでハウス果樹栽培を後世に継承することができると思えている。

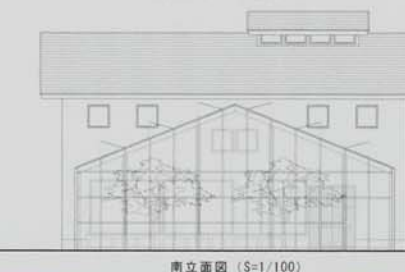
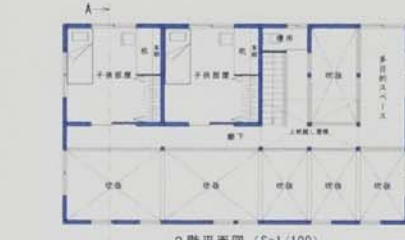
道路を挟んだ南側の大きな敷地には、以前、大きなビニールハウスがあったが、大雪によって倒壊して、今はすべて地植えの桃の木が植わっている。春になると、一面ピンクのじゅうたんを敷き詰めたような景色は麗しくきれいだ。これはおじいさんが育てている桃の木だが、忙しい時にはお手伝いをする機会も増えてきた。

この家は住み心地も素晴らしい。住宅部分の構造は、山梨市がある関東地区に昔から使われる「越屋根(こしやね)」が載った切妻屋根になっていて、室内にこもった熱を屋外に押し、風通しが良く過ごしやすい。夏は木の葉が直射日光を遮り、ガラスハウスの開口部を完全にすることで、防炎的になり、涼しい。冬は開口部を締め切り、壁間は太陽の光で室内が暖められ、とても明るく暖かい。また、夜は寒さから果樹を守るためのポーターを吹くので、その暖かさが家全体に広がり、とても快適な空間になる。

花が咲く頃は、お花見ができるし、それ以外の時でも、妻が近所のお友達を誘ってテーブルや縁側でお茶を飲みながら世間話をしたり、子供たちは仲良く鬼ごっこやかくれんぼをしたり、多くの人が自然と集える不思議な空間である。

山梨県はここ数年、人口が減少傾向にあり、空き家率も全国一位だ。このような、地域の特性を活かした魅力的な住宅が少しでも増えたら、全国から多くの人が山梨県に引っ越してきてくれるのではないかと思う。私たちはこの土地に引っ越してきて本当によかった。

2014年(平成26年)の大雪とは?
2014年2月8日~9日、14日~15日にかけて関東地方一帯を襲った大雪の総称である。山梨県では甲府でこれまで過去最高だった積雪量49cmを3倍近く上回る114cmを記録し、観測史上最大の大雪となった。この大雪により交通網が大変乱し、物流が止まり、スーパーやコンビニの陳列棚からは商品が消失した。各地で車が立ち往生したり、家屋やビニールハウスが倒壊し、山梨県の村では自動車がたむけずに埋没した。大雪で倒壊した山梨県内農家の倒壊したビニールハウス3362軒、被害の割合は約7割にも上った。



越屋根(こしやね)とは?

普通の屋根様式の上に一段高く設けられた小さい小屋根をいう。換気(通風)および採光のために設けられるものである。山梨県ではその通風および採光を必要とする農家が実在。山梨市のある関東地区の多くの家で越屋根が採用された。また、屋根や炊事の間に、まきなどを燃やすことによって発生する煙を吐きとして設けられた。

農家の人たちの指導のもと、このガラスハウスの温室で栽培された果物は、自分たちで食べるだけでなく、出荷してその売上金を農家の人たちと分け合うことができるシステムになっている。

